

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372400337		
法人名	株式会社 メゾネット		
事業所名	グループホーム 星の家 (A)		
所在地	岡山県瀬戸内市長船町長船551		
自己評価作成日	令和 4 年 3 月 5 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の状況に合わせ、個別にモンテッソーリケアを工夫実践することにより、ご利用者様お一人お一人が日々やりがいを感じていただけるようにご支援します。また、自由に解放された環境の中で生活していただきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3372400337-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 4 年 6 月 24 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県外の方の面会希望が多く、会えないしオンラインができない事で、不満となり、施設を悩ませていて、若い職員さんのパワーでカバーをしている。管理者を中心として、絵心を以った職員が、センス良く掲示物を展示し、様々な面から魅させるシーンとなり、フラストレーション解消やストレス発散に一役買っている。忙しさのあまり、口調、語尾、声掛けがきつくなりやすいので、「いらいらせず、ハイハイ深呼吸!」と言って落ち着いて頂き、気配りも兼ね備えている。利用者が楽しむバックボーンとして、職員に教える工夫を考え、腫れ物に触るように、将来を見据えながら対応している。管理者あつての施設長なんだから、常に覚悟していて、いびられても職員を守る日々を目指している頼もしい施設長がいた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	有限会社アウルメディカルサービス	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に理念を伝えている。事務所に掲示し、共有している。社内研修時にも確認している。	新職員に対しては、モンテの説明をして、理念のコピーを渡してこれに基づいて理解していただいている。事務所に掲示し、申し送り時に「促し」「待つ」の姿勢を確認しながら、心遣いが十分できるようにサポートをしている。	コロナ禍が終焉したときに外部の方にアピールするうえで、今現在、玄関に貼ってある職員の写真に、一人ひとりの目標をつけ添えてはいかがでしょうか？
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学生の職場体験、地域の祭り等への参加を行っている。今年度はコロナ禍のため、中止となっている。	中学生の職場体験の申し込みが2人あり、流れを見て頂き、何がしたいかを確認して、興味が湧くように企画している。近所の方と目が合えばこちらから挨拶をして、お向かいさんとの縁もさらに深まり、さらにご子息が庭の手入れを委託できるほど気安い関係となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、町内、民生、行政の方と意見交換や話し合いを行っている。今年度はコロナ禍のため、中止となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開き、活動内容を報告し、ご家族、行政、GHとの意見交換を行い、今後のサービスに活かしている。今年度はコロナ禍のため、運営推進会議を中止となっているが、構成員の方やご家族には、電話で意向などを確認している。	2ヶ月に1回、リアルに展開できるように地域包括、指導課と本社とで相談している。現在は、家族のご意見を聞きながら職員と密な関係が築けている。民生委員、町内の方には書類を送ったり、電話をかけたしたりして、意向を聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、地域ケア会議により情報交換を行っている。今年度はコロナ禍のため、報告書のみ送付させていただいている。	施設長が窓口となり、瀬戸内カフェの紹介と参加申し込みをいただき、参加をしている。それ以外にも前向きに紹介を受けていて、できる限り縁が途切れない配慮をしている。統括マネージャーも参加して情報を収集している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての研修を行い、身体拘束を行わない介護について確認している。	年に1回、全体研修をして現状に照らし合わせて管理者クラスで、意見を出し合い、職員に浸透できるように進めている。スピーチロックの話題も多く、理由をつけて納得がいくような利用者の身になって、拘束にならない様に気配りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に職員会議の場で研修を行い、職員間で再確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会に参加できる時に参加し活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、契約時に十分な説明を行い、確認を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書(重要事項説明書)に苦情等の報告先や担当者を明記している。また、来所時や家族会等お話しする機会を出来るだけ持つよう努めている。	利用者の表情やトーンをくみ取り、手を握ったり、五感から探るようにしている。家族とゆっくりと話す時間を設けて、なんでも言える環境を築けるようにしている。モンスター化にならない様、配慮をしつつ対応に心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケース会議や業務報告書を通じて聞く機会を設けており、必要に応じて個別面談を行っている。	各ユニットで、利用者や自分の悩みや成果について記帳していただき、相談できる場を作っている。内部通報ホットラインを作って、場や人を変え上層部で対応できる環境を形成している。特に新人職員さんには、たびたび声をかけて労うようにしている。	人に言われてから行動するのではなく、自ら気が付き責任をもって行動しているの で、公共の場や地域で活躍できる場で、人に接する機会を設けてレベルアップを図ってはいかががでしょうか？
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「働きやすい職場づくり」として各施設のリーダーが集まり話をしている。また、業務報告書などを通じて、社員の意見の反映に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間で計画し、毎月研修を行っている。市の研修などへも、情報を提供している。 認知症実践者研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政が行っている研修やケアカフェなどに参加し交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時にご本人にお会いし、直接お伺いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時から、入居初期にはとくにご意見要望、質問等に丁寧に対応できるよう職員は努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ソーシャルワーカーやケアマネージャーの方からも情報をいただき、アセスメント結果を十分に分析し対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけご本人の出来ることは行っていただき、出来ない部分のお手伝いを行うよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にお話を伺い、協力し合っご本人の支援を行えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染のため、外出は控えていただいているが、感染状況を確認しながら、面会を解除したりしている。	人混みを避けながら、散歩やごみ捨てに行き、何かしら外出できる様にしている。たまたま利用者の奥様と入居者が同級生ということで、昔話に花を添えるシーンもあった。帰りたい願望も聞きながら、ユニットを越えて利用者同士語れる場合もあり、交流し易い配慮をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の活動の機会には、利用者様同士が協力し合ったり、良いコミュニケーションや人間関係が図れるよう、職員が関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの契約が終了しても、連絡を取っていただけよう、カルテを補完し問い合わせに対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、ご本人の意向や思いや希望に耳を傾けている。ご家族の協力もいただきながら、希望に沿えるように努めている。	目の動きやしぐさから判断したり、テレビからの情報を実現できたりするようにしている。とにかくキーワードを悟れるように職員全員で、把握して、申し送り時に共有している。「わしの家によそもんがいる」と訴える利用者もいて、納得していただく体制も施設内で、考慮することを柱としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段使用されるものは、馴染みのある個人のものを使用していただき、過去の生活歴を活かした暮らし方を支援できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月、ケース会議を行ない、現状の把握と課題解決を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意向を重視し、家族の意見を参考に適切は支援ができるよう、モニタリングを行い職員間でケース会議時に話し合い、介護計画を作成している。	家族の意見を聞いたうえで、全体の職員会議に訂正、修正案を掲げ、よりその人がその人らしく生活ができるケアプランに形成している。星の家だよりに、一筆を添えて、家族の方にも分かるように気配りをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時系列で分かるように個別記録を残している。工夫を行った介護方法や結果を記録している。申し送りを通じて情報を共有し介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に必要な応じた対応を行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の中で、情報を把握できる様にし、参加可能な地域資源を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族希望のかかりつけ医の医療を適切に受けていただいている。常に連絡をとりながら、医師の指示を受けている。	何でも話せ、融通が利き、フットワークがあるドクターが、かかりつけ医となり、大変、気心が知れ、職員とフィットしている。ドクターに恵まれ、地域でも連携が図れ、安心できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて連絡を取り合い、その都度指示を受け早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会を行い、ご家族や担当者と情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族、ご本人(可能な場合)話し合いの場を設けている。 文書での説明を行い、同意書の作成を行っている。	日々の往診で、ドクターと連携が取れ、家族と今後のことについて、ドクターから説明を促して頂いている。看取りに関してもホームで体制を作り、経験豊富な職員がエンジェルケアをしていく体制もできている。デスクカンファレンスも活用して、活かせるターミナルとなるように職員と共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的を確認する時間を取っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域や家族の協力が得られる様に運営推進会議で話し合っている。 年2回、避難訓練を行っている。	年2回昼夜交互に行っている。避難経路、緊急連絡網、マニュアルを掲示し、管理者が管理して、いつでも活用できるように把握し、何か変化があれば修正して、納得できるように努めている。備蓄も通常ドリンクバーをしていることを利用して、数種類の味覚を楽しめるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に研修を行い、プライバシー保護、人権尊重の勉強を行っている。	年間行事として、ワークを使いプライバシーを守る体験をしている。特にトイレの声掛けに気配りをしているが、利用者同士がすぐ気が付き「トイレに行くん？トイレに行くん？」とバレバレになるが、さりげなく対応してプライバシーを守るように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	モンテッソーリケアを意識実践する中で、利用者の希望や意思を第一に自己決定できる選択肢の提供を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で、支援介助を行う際には必ず利用者の意思確認を行うことから始めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて適切な衣類、身だしなみを利用者が選択できるように、クローゼット内を整理している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせ、出来ることはしていただいている。調理や味付けをされることもある。	全部手作り。野菜の皮むき、もやしのひげ取り、最近では玉ねぎの皮むきを手伝っていただき、テーブルも念入りに拭いていただくことが日課になっている。テレビやちらしの物産展の催しが気になり、期待をしながら、いつ食べれるかを夢見ている。職員は利用者と同じものを食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録に残して日々の栄養摂取状況を申し送り、共有している。必要に応じて医師に報告し指示を受ける場合もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状況に応じた口腔ケア支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行い、排便排尿状況を把握しながら自立支援を行っている。	チェック表はないが、個人記録を参照として、雰囲気を感じ、声掛け誘導をしている。負担金を極力少ないよう工夫をし、財布に優しい支援を心掛けている。失敗が目立つ方には、定期的に声掛けをし、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リハビリ体操等、運動の機会を多く持てるように努めている。排便記録を申し送り状況を共有し、必要に応じて医師の指示を受けることもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中の午後に、個別入浴を実施している。	週3日入浴をして頂いている。入浴剤も楽しめる種類を豊富に用意し、体が温まる工夫をしている。夕方7時頃に入浴まではいかないが、シャワー浴で、家で暮らしていた生活感を醸し出せる配慮もしている。介助も利用者に合わせて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は利用者の希望を考慮しており、就寝前にはホールでテレビを楽しめる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に変更があれば申し送りを行い、情報を共有している。管理者が服薬の管理を行い、窓口となり主治医に相談し、家族への報告も行っている。変更時は状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常作業の中で、家事作業などで役割を担って頂いている。コーヒーや牛乳等個人の嗜好を考慮して飲み物を提供している。喫茶コーナーを設け自由に利用して頂く支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、外出行事などが中止となっている。定期受診などは行っているが、戸外への外出を控えている状況。	ちょっとした肌着や、おやつを買いに行ける外出を待ち遠しく、大手ドラッグやスーパーに顔を出すことも企画している。楽しみの新聞拝読の為に取りに行ったり、散歩も気分転換に、腕立て伏せもして、健康に留意する利用者もいる。スロープの花壇に水やりをして、ストレス発散する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で立替をし、買い物へ行き本人のほしいものを購入していただいている。希望があれば所持していただく場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が作った壁画やぬり絵などを飾って季節感を感じてもらえるようにしている。	季節ごとに展示物を作ったり、正月には書初めをしていただき、掲示した。臭いが気になるので、芳香剤を使用したり、朝夕と漂白ブリーチをしたりして、掃除を徹底している。ほとんどの方が、リビングに集まり、自由奔放に振る舞い、特に体操や歌を歌ったりして、笑顔が舞う日々を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の並びも一人ひとりがゆっくりと過ごせる配置を考えて提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り使い慣れたものを自宅から持ってきてもらっている。	何でも持ってきてよいという気持ちから、仏壇を持ってこられ、今では、面会に来られた娘さんが、手を合わせている。数年前の体験した中学生の写真やお礼状を壁に貼られ、利用者を見守っている。語られた趣味や嗜好を職員がイラストで描き、我が家であると自慢している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使いやすい環境をつくるために場所を示すものを貼るなどして分かりやすく工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372400337		
法人名	株式会社 メゾネット		
事業所名	グループホーム 星の家 (B)		
所在地	岡山県瀬戸内市長船町長船551		
自己評価作成日	令和 4 年 3 月 5 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3372400337-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 6 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

モンテッソーリケアを取り組む事で、ご利用者様の時間の流れに寄り添い、その方に合った環境を整え、ご利用者様の自主性を大切にします。また、ゆっくりと「待つ」姿勢を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県外の方の面会希望が多く、会えないしオンラインができない事で、不満となり、施設を悩ませていて、若い職員さんのパワーでカバーをしている。管理者を中心として、絵心を以った職員が、センス良く掲示物を展示し、様々な面から魅させるシーンとなり、フラストレーション解消やストレス発散に一役買っている。忙しさのあまり、口調、語尾、声掛けがきつくなりやすいので、「いらいらせず、ハイハイ深呼吸!」と言って落ち着いて頂き、気配りも兼ね備えている。利用者が楽しむバックボーンとして、職員に教える工夫を考え、腫れ物に触るように、将来を見据えながら対応している。管理者あつての施設長なんだから、常に覚悟していて、いびられても職員を守る日々を目指している頼もしい施設長がいた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	有限会社アウルメディカルサービス	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に理念の共有、地域交流など、地域密着型サービスとして実践している。	新職員に対しては、モンテの説明をして、理念のコピーを渡してこれに基づいて理解していただいている。事務所に掲示し、申し送り時に「促し」「待つ」の姿勢を確認しながら、心遣いが十分できるようにサポートをしている。	コロナ禍が終焉したときに外部の方にアピールするうえで、今現在、玄関に貼ってある職員の写真に、一人ひとりの目標をつけ添えてはいかがでしょうか？
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校やお祭りなど、出来る限り参加をしている。今年度はコロナ禍のため、中止となっている。	中学生の職場体験の申し込みが2人あり、流れを見て頂き、何がしたいかを確認して、興味が湧くように企画している。近所の方と目が合えばこちらから挨拶をして、お向かいさんとの縁もさらに深まり、さらにご子息が庭の手入れを委託できるほど気安い関係となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日中では行えていないが、包括支援センターなどの認知症サポーター講座などへ参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、行うことで、家族、行政、地域の方への情報交換が行えている。今年度はコロナ禍のため、中止となっている。	2ヶ月に1回、リアルに展開できるように地域包括、指導課と本社とで相談している。現在は、家族のご意見を聞きながら職員と密な関係が築けている。民生委員、町内の方には書類を送ったり、電話をかけたりして、意向を聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議、多職種連携などで交流している。	施設長が窓口となり、瀬戸内カフェの紹介と参加申し込みをいただき、参加をしている。それ以外にも前向きに紹介を受けていて、できる限り縁が途切れない配慮をしている。統括マネジャーも参加して情報を収集している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修に入れ、身体拘束や高齢者虐待についての理解を深めている。また、月に1回廃止委員会を開いている。	年に1回、全体研修をして現状に照らし合わせて管理者クラスで、意見を出し合い、職員に浸透できるように進めている。スピーチロックの話題も多く、理由をつけて納得がいくような利用者の身になって、拘束にならない様に気配りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修に入れ、身体拘束や高齢者虐待についての理解を深めている。また、月に1回、廃止委員会を開いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政が行う研修などに参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時間は十分に話し合い、理解・納得はされているが入所されてからも疑問点等、ご家族からの要望あれば話し合いの場は設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議を行い、情報共有を行っている。	利用者の表情やトーンをくみ取り、手を握ったり、五感から探るようにしている。家族とゆっくりと話す時間を設けて、なんでも言える環境を築けるようにしている。モンスター化にならない様、配慮をしつつ対応に心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や業務報告書、懇親会などを行い、意見を聞く機会を設けている。	各ユニットで、利用者や自分の悩みや成果について記帳していただき、相談できる場を作っている。内部通報ホットラインを作って、場や、人を変え上層部で対応できる環境を形成している。特に新人職員さんには、たびたび声をかけて労うようにしている。	人に言われてから行動するのではなく、自ら気が付き責任をもって行動しているの で、公共の場や地域で活躍できる場で、人に接する機会を設けてレベルアップを図ってはいかががでしょうか？
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な研修、面談を行い、それぞれの職員と向き合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内、社外研修に参加出来るようにしている。また、定期面談を行い、キャリアアップ出来るように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアカフェ、多職種研修へ参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントや入居時に話を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ感染で面会禁止の時期が長いですが、大切な事は電話をかけるようにし、不安を少しでも早く解決する様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアの説明、サービス利用に関しては電話対応や面会はできなくても、直接施設まで足を運んでいただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様個々の得意・不得意を理解し、出来ることはもっと出来る様に協力して笑い合える関係を築いて行きたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今の状態を理解して頂き、今後の事も相談できる関係を築いて行きたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今現在、お友達や知り合いの方が来訪されることはない。外出等出来ないためリモートでお話できる時間を作っている。	人混みを避けながら、散歩やごみ捨てに行き、何かしら外出できる様にしている。たまたま利用者の奥様と入居者が同級生ということで、昔話に花を添えるシーンもあった。帰りたい願望も聞きながら、ユニットを越えて利用者同士語れる場合もあり、交流し易い配慮をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションがきちんと行えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の様子や在宅へ戻られる際の情報共有を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングを行い、その方の意向を把握している。	目の動きやしぐさから判断したり、テレビからの情報を実現できたりするようにしている。とにかくキーワードを悟れるように職員全員で、把握して、申し送り時に共有している。「わしの家によそもんがいる」と訴える利用者もいて、納得していただく体制も施設内で、考慮することを柱としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	モンテッソーリケアを行うことで、生活環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士で情報共有し、きちんと把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議で話し合い、プランを作成している。	家族の意見を聞いたうえで、全体の職員会議に訂正、修正案を掲げ、よりその人がその人らしく生活ができるケアプランに形成している。星の家だよりも、一筆を添えて、家族の方にも分かるように気配りをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者担当を決め、モニタリング、プラン作成し、ケース会議で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たに、モンテッソーリケアを取り入れ、よりよい環境を整えたり、やりがいのある生活を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	状況に応じて、把握している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に説明し、納得を得ている。	何でも話せ、融通が利き、フットワークがあるドクターが、かかりつけ医となり、大変、気心が知れ、職員とフィットしている。ドクターに恵まれ、地域でも連携が図れ、安心できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携している看護職と相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医や病院関係者と連絡を取りながら支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や体調など状況に応じて共有し、必要に応じて、カンファレンスを行っている。	日々の往診で、ドクターと連携が取れ、家族と今後のことについて、ドクターから説明を促して頂いている。看取りに関してもホームで体制を作り、経験豊富な職員がエンジェルケアをしていく体制もできている。デスクンファレンスも活用して、活かせるターミナルとなるように職員と共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的を確認する時間を取っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練、消防署の職員による指導を受けている。	年2回昼夜交互に行っている。避難経路、緊急連絡網、マニュアルを掲示し、管理者が管理して、いつでも活用できるように把握し、何か変化があれば修正して、納得できるように努めている。備蓄も通常ドリンクバーをしていることを利用して、数種類の味覚を楽しめるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や職員一人ひとりが気をつけながら対応している。	年間行事として、ワークを使いプライバシーを守れる体験をしている。特にトイレの声掛けに気配りをしているが、利用者同士がすぐ気が付き「トイレに行くん？トイレに行くん？」とバレバレになるが、さりげなく対応してプライバシーを守るように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	モンテッソーリケアを行うことで、選べる喜びを感じてもらえるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を良く見ること、待つケアを実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備したり、好みを聞きながら食事を行っている。	全部手作り。野菜の皮むき、もやしのひげ取り、最近では玉ねぎの皮むきを手伝っていただき、テーブルも念入りに拭いていただくことが日課になっている。テレビやちらしの物産展の催しが気になり、期待をしながら、いつ食べれるかを夢見ている。職員は利用者と同じものを食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や摂取量など、きちんと把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は行えていない。必要に応じて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り、トイレでの排泄、トイレ誘導を行なっている。	チェック表はないが、個人記録を参照として、雰囲気を感じ、声掛け誘導をしている。負担金を極力少ないよう工夫をし、財布に優しい支援を心掛けている。失敗が目立つ方には、定期的に声掛けをし、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入りたい日に必ず入れることは、難しいと言える。時間帯などは決めて対応している。	週3日入浴をして頂いている。入浴剤も楽しめる種類を豊富に用意し、体が温まる工夫をしている。夕方7時頃に入浴まではいかないが、シャワー浴で、家で暮らしていた生活感を醸し出せる配慮もしている。介助も利用者に合わせて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間など、個々に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、看護師と相談しながら確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モンテッソーリケアを行い、出来るだけ自主的に役割が行えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、外出行事などが中止となっている。定期受診などは行っているが、戸外への外出を控えている状況。	ちょっとした肌着や、おやつを買いに行ける外出を待ち遠しく、大手ドラッグやスーパーに顔を出すことも企画している。楽しみの新聞拝読の為に取りに行ったり、散歩も気分転換に、腕立て伏せもして、健康に留意する利用者もいる。スロープの花壇に水やりをして、ストレス発散する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に所持について話し合っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	秋序感を大切に工夫している。	季節ごとに展示物を作ったり、正月には書初めをしていただき、掲示した。臭いが気になるので、芳香剤を使用したり、朝夕と漂白ブリーチをしたりして、掃除を徹底している。ほとんどの方が、リビングに集まり、自由奔放に振る舞い、特に体操や歌を歌ったりして、笑顔が舞う日々を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席を工夫したり、皆で行えるレクなどを考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場として、使いなれたものを持参していただいている。	何でも持ってきてよいという気持ちから、仏壇を持ってこられ、今では、面会に来られた娘さんが、手を合わせている。数年前の体験した中学生の写真やお礼状を壁に貼られ、利用者を見守っている。語られた趣味や嗜好を職員がイラストで描き、我が家であると自慢している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	モンテッソーリケアの迷いにくい環境づくりを工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372400337		
法人名	株式会社 メゾネット		
事業所名	グループホーム 星の家 (C)		
所在地	岡山県瀬戸内市長船町長船551		
自己評価作成日	令和 4 年 3 月 5 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3372400337-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 4 年 6 月 24 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

モンテッソーリケアを取り組む事で、ご利用者様の時間の流れに寄り添い、その方に合った環境を整え、ご利用者様の自主性を大切にします。また、ゆっくりと「待つ」姿勢を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県外の方の面会希望が多く、会えないしオンラインができない事で、不満となり、施設を悩ませていて、若い職員さんのパワーでカバーをしている。管理者を中心として、絵心を以った職員が、センス良く掲示物を展示し、様々な面から魅させるシーンとなり、フラストレーション解消やストレス発散に一役買っている。忙しさのあまり、口調、語尾、声掛けがきつくなりやすいので、「いらいらせず、ハイハイ深呼吸!」と言って落ち着いて頂き、気配りも兼ね備えている。利用者が楽しむバックボーンとして、職員に教える工夫を考え、腫れ物に触るように、将来を見据えながら対応している。管理者あつての施設長なんだから、常に覚悟していて、いびられても職員を守る日々を目指している頼もしい施設長がいた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	有限会社アウルメディカルサービス	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に理念を伝えている。事務所に掲示し、共有している。社内研修時にも確認している。	新職員に対しては、モンテの説明をして、理念のコピーを渡してこれに基づいて理解していただいている。事務所に掲示し、申し送り時に「促し」「待つ」の姿勢を確認しながら、心遣いが十分できるようにサポートをしている。	コロナ禍が終焉したときに外部の方にアピールするうえで、今現在、玄関に貼ってある職員の写真に、一人ひとりの目標をつけ添えてはいかがでしょうか？
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学生の職場体験、地域の祭り等への参加を行っている。今年度はコロナ禍のため、中止となっている。	中学生の職場体験の申し込みが2人あり、流れを見て頂き、何がしたいかを確認して、興味が湧くように企画している。近所の方と目が合えばこちらから挨拶をして、お向かいさんとの縁もさらに深まり、さらにご子息が庭の手入を委託できるほど気安い関係となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、町内、民生、行政の方と意見交換や話し合いを行っている。今年度はコロナ禍のため、中止となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に一度、地域、行政の方に参加して頂き、ご意見を伺っている。サービス向上のために取り組んでいる。今年度はコロナ禍のため、中止となっている。	2ヶ月に1回、リアルに展開できるように地域包括、指導課と本社とで相談している。現在は、家族のご意見を聞きながら職員と密な関係が築けている。民生委員、町内の方には書類を送ったり、電話をかけたりして、意向を聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当の方に運営推進会議に参加していただいている。今年度はコロナ禍のため、中止となっている。	施設長が窓口となり、瀬戸内カフェの紹介と参加申し込みをいただき、参加をしている。それ以外にも前向きに紹介を受けていて、できる限り縁が途切れない配慮をしている。統括マネージャーも参加して情報を収集している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての研修を行っており、月に一度、リーダー会議にて話しをしている。	年に1回、全体研修をして現状に照らし合わせて管理者クラスで、意見を出し合い、職員に浸透できるように進めている。スピーチロックの話題も多く、理由をつけて納得がいくような利用者の身になって、拘束にならない様に気配りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に職員会議の場で研修を行い、確認合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政の行う勉強会へ参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、契約時に十分な説明を行い、確認を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段からご利用者やご家族の思いを聞く様、つとめている。	利用者の表情やトーンをくみ取り、手を握ったり、五感から探るようにしている。家族とゆっくりと話す時間を設けて、なんでも言える環境を築けるようにしている。モンスター化にならない様、配慮をしつつ対応に心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケース会議や業務報告書を通じて聞く機会を設けており、必要に応じて個別面談を行っている。	各ユニットで、利用者や自分の悩みや成果について記帳していただき、相談できる場を作っている。内部通報ホットラインを作って、場や、人を変え上層部で対応できる環境を形成している。特に新人職員さんには、たびたび声をかけて労うようにしている。	人に言われてから行動するのではなく、自ら気が付き責任をもって行動しているの で、公共の場や地域で活躍できる場で、人に接する機会を設けてレベルアップを図ってはいかがでしょうか？
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「働きやすい職場づくり」として各施設のリーダーが集まり話をしている。また、業務報告書などを通じて、社員の意見の反映に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間で計画し、毎月研修を行っている。市の研修などへも、情報を提供している。 認知症実践者研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政が行っている研修やケアカフェなどに参加し交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時に本人にお会いし、直接お伺いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ感染で面会禁止の時期が長いですが、大切な事は電話をかけるようにし、不安を少しでも早く解決する様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時把握出来るよう努めている。ソーシャルワーカーやケアマネージャーの方の話を聞いて情報を分析している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	馴染みの関係が築ける様、支援を行っている。ご本人の出来る事は行っていただき、出来ない部分のお手伝いを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にお話を伺う様にしている。必要な時や施設で足りない部分を協力していただくこともある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら一時帰宅や外出を行っている。	人混みを避けながら、散歩やごみ捨てに行き、何かしら外出できる様にしている。たまたま利用者の奥様と入居者が同級生ということで、昔話に花を添えるシーンもあった。帰りたい願望も聞きながら、ユニットを越えて利用者同士語れる場合もあり、交流し易い配慮をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良い関係になる様、職員が間に関わりながら、レクリエーションなどを行い、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院し退去された場合、面会を行うなどしている。ご家族が大正琴のボランティアにいられたこともある。地域の勉強会や行事でお会いする時に、情報を交換することもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、思いや希望に耳を傾けている。ご家族の協力もいただきながら、個別の対応に努めている。また、毎月、カンファレンスを行い、共有している。	目の動きやしぐさから判断したり、テレビからの情報を実現できたりするようにしている。とにかくキーワードを悟れるように職員全員で、把握して、申し送り時に共有している。「わしの家によそもんがいる」と訴える利用者もいて、納得していただく体制も施設内で、考慮することを柱としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に、ご本人、ご家族、ケアマネジャー等から詳しく話を聞き、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月、ケース会議を行ない、現状の把握と課題を行ない、対応を協議している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で思いや希望を聞きとり、ケアプランの更新時に参考にしている。家族とも面会時に話しを聞いている。	家族の意見を聞いたうえで、全体の職員会議に訂正、修正案を掲げ、よりその人がその人らしく生活ができるケアプランに形成している。星の家だよりも、一筆を添えて、家族の方にも分かるように気配りをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時系列でわかるよう個別記録を残している。工夫を行った介護方法や結果を記入し、申し送りを通して共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	モンテッソーリケアを取り組み、ご利用者がやりたいことが出来るように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の中で、情報を把握できる様にし、参加可能な地域資源を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族希望のかかりつけ医の医療を適切に受けていただいている。常に連絡をとりながら、医師の指示を受けている。	何でも話せ、融通が利き、フットワークがあるドクターが、かかりつけ医となり、大変、気心が知れ、職員とフィットしている。ドクターに恵まれ、地域でも連携が図れ、安心できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて行っており、綿密に協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会を行い、ご家族や担当者と情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族、ご本人(可能な場合)話し合いの場を設けている。 文書での説明を行い、同意書の作成を行っている。	日々の往診で、ドクターと連携が取れ、家族と今後のことについて、ドクターから説明を促して頂いている。看取りに関してもホームで体制を作り、経験豊富な職員がエンジェルケアをしていく体制もできている。デスクカンファレンスも活用して、活かせるターミナルとなるように職員と共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的を確認する時間を取っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域や家族の協力が得られる様に運営推進会議で話し合っている。 年2回、避難訓練を行っている。	年2回昼夜交互に行っている。避難経路、緊急連絡網、マニュアルを掲示し、管理者が管理して、いつでも活用できるように把握し、何か変化があれば修正して、納得できるように努めている。備蓄も通常ドリンクバーをしていることを利用して、数種類の味覚を楽しめるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に研修を行い、プライバシー保護、人権尊重の勉強を行っている。	年間行事として、ワークを使いプライバシーを守る体験をしている。特にトイレの声掛けに気配りをしているが、利用者同士がすぐ気が付き「トイレに行く？トイレに行く？」とバレバレになるが、さりげなく対応してプライバシーを守るように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の進行に伴い、意識表現の難しい利用者の希望、意思表示には、注意を払っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人に意思確認を行ってからケアを行っている。個別対応を心掛け、ひとりひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時節にあわせ、適切な身だしなみができるように、クローゼット内を整理している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆拭き等、出来ることは、利用者の方でいただいている。味付や形態は好みを聞いて行う場合もある。おやつや飲み物など、複数から選ぶようにしている。	全部手作り。野菜の皮むき、もやしのひげ取り、最近では玉ねぎの皮むきを手伝っていただき、テーブルも念入りに拭いていただくことが日課になっている。テレビやちらしの物産展の催しが気になり、期待をしながら、いつ食べれるかを夢見ている。職員は利用者と同じものを食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録に残して日々の栄養摂取状況を確認している。必要に応じて医師の指示のもと補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状況に応じた口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導を行い、排便、排尿状況を把握しながら、自立支援を行っている。夜間も行動のパターンに十分注意している。	チェック表はないが、個人記録を参照として、雰囲気を感じ、声掛け誘導をしている。負担金を極力少ないよう工夫をし、財布に優しい支援を心掛けている。失敗が目立つ方には、定期的に声掛けをし、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リハビリ体操への参加を促し、運動の機械を多く持てるように努めている。排便後日数を記録している。日々、水分摂取の促しを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中、午後に入浴していただいている。3日に一度以上は入浴していただける様、個別にゆくりと利用していただいている。	週3日入浴をして頂いている。入浴剤も楽しめる種類を豊富に用意し、体が温まる工夫をしている。夕方7時頃に入浴まではいかないが、シャワー浴で、家で暮らしていた生活感を醸し出せる配慮もしている。介助も利用者に合わせて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝の時間をずらしたり、居室でTVを楽しめる方もいる。適切な室温、寝具を提供、管理している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変化があれば申し送りを行い、情報を共有している。管理者が服薬の管理を行い、窓口となり主治医に相談し、家族への報告も行っている。変更時は状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業などで役割を担って頂いている。コーヒーや牛乳等個人の嗜好を考慮して飲み物を提供している。喫茶コーナーを設け自由に利用して頂く支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、外出行事などが中止となっている。定期受診などは行っているが、戸外への外出を控えている状況。	ちょっとした肌着や、おやつを買いに行ける外出を待ち遠しく、大手ドラッグやスーパーに顔を出すことも企画している。楽しみの新聞拝読の為に取りに行ったり、散歩も気分転換に、腕立て伏せもして、健康に留意する利用者もいる。スロープの花壇に水やりをして、ストレス発散する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で立て替えをし、買い物へ行った時、本人の欲しい物を購入して頂いている。特に希望時には所持して頂く場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、ご利用者の作った作品や塗り絵や貼り紙を飾ったり、季節感のある飾りをしている。ソファを設置し、くつろげる空間づくりをしている。	季節ごとに展示物を作ったり、正月には書初めをしていただき、掲示した。臭いが気になるので、芳香剤を使用したり、朝夕と漂白ブリーチをしたりして、掃除を徹底している。ほとんどの方が、リビングに集まり、自由奔放に振る舞い、特に体操や歌を歌ったりして、笑顔が舞う日々を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の並びも一人ひとりがゆっくりと過ごせる配置を考えて提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物を持って来て頂き、好きだったものや、ご家族の写真を飾ったりしている。	何でも持ってきてよいという気持ちから、仏壇を持ってこられ、今では、面会に来られた娘さんが、手を合わせている。数年前の体験した中学生の写真やお礼状を壁に貼られ、利用者を見守っている。語られた趣味や嗜好を職員がイラストで描き、我が家であると自慢している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ標示を行い、居室へは名前を貼っている。転倒時の安全の為、保護ゴムを取付たり工夫している。		